



はたららくネット



広報紙「はたららくネット」では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者の取り組み事例を紹介しております。今回は、株式会社アサヒセキュリティ南東北本部と特別養護老人ホーム暁星園の取り組みをご紹介します。

●株式会社アサヒセキュリティ南東北本部（仙台市宮城野区）



仙台オフィス外観

防犯対策、警備などの事業を行っているセコム株式会社のグループ会社のひとつです。主な事業は、ふたつあります。ひとつは、貴重品の運搬と警備です。契約先の企業や店舗から、現金、有価証券、貴金属といった貴重品を輸送します。輸送中の警備も行っています。大型店舗などにある現金自動預け払い機の中にある現金を入れるカセットの交換もしています。もうひとつは、集配金です。契約先の企業や店舗に代わって、売上金の集計、計算や整理、銀行への入金を行うとともに、釣り銭を準備し、それを契約先に運ぶなど、現金の管理に関わる業務を行っています。

仙台オフィスを含め、全国に38のオフィスがあります。宮城、山形、福島3県の業務を取りまとめる南東北本部は、仙台オフィスの中にあります。

同社は会社設立以来、障害者雇用に取り組んできました。南東北本部で障害者雇用を開始したのは、平成29年です。法定雇用率を順守するとともに、社会的意義も考慮し、全国で障害者雇用に力を入れるという同社の方針に基づいて行われました。南東北本部では令和4年12月現在、4名の障害のある方が社員として働いています。

4名全員が、仙台オフィス内の「仙台VEDS(Valuable Exchange and Delivery System)センター」で働いています。「仙台VEDSセンター」は全国に22ある「VEDSセンター」のひとつで、お客様から預った売上金を整理して銀行に入金する準備や釣り銭を用意するという現金管理業務を行っています。

4名は、お札の束を専用の機械にかけて枚数が合っているか確認する、硬貨をフィルム状のもので巻いて棒状になっている「棒金」を割って、硬貨の枚数が合っているか確かめ、もう一度フィルム状のものを

巻くという作業のほか、様々な工程で確認を行う作業も担当しています。

障害のある社員にはそれぞれ、指導を行う同年代の社員がひとり付きます。「年が離れている社員に話しにくい」、「誰に聞いて良いかわからない」といった声が、障害のある社員からあったため、指導を行う社員を限定し、質問しやすい環境をつくりました。

設立：平成10年5月15日

代表者：代表取締役社長 村田 年正

事業内容：貴重品運搬警備、集配金業務

雇用状況：知的障害者2名、精神障害者2名

※雇用状況は南東北本部、令和4年12月現在

支援機関との連携にも力を入れています。障害のある社員が支援機関の職員と面談する時間は、業務時間内に優先的に設けるようにしています。また、支援機関の職員から障害のある社員への接し方や指示の伝え方について助言もしてもらうなど、職場全体として適切な対応をとれるように努めています。

南東北本部本部長の坂井茂之さんは、「障害のある社員の仕事ぶりを見ると、丁寧だと感じます。それぞれの適性を見極めて業務に当たってもらっており、貴重な戦力となっています。障害のある社員への接し方を考えることで、社員が全体として周囲に気遣いができるようになるなど、働き方がレベルアップしました」とお話をされていました。

同社では令和4年12月現在、全国で77名の障害のある社員が働いています。今後も社員の数は増える見込みで、それに伴い、障害のある社員の数も増やす予定です。法定雇用率を満たすだけでなく、入社後も安定して長く働けるように、悩んだときに相談できる体制づくりや学校など関係機関との連携も強化する方針です。障害のある社員が担当する業務の幅を広げることも検討中です。

人事本部人財開発部参与の中井朋臣さんは、障害のある社員にはそれぞれの特性に合わせた関わり方をしているとしたうえで、「現金を取り扱う当社の業務は、市民生活に密着した、社会的責任の大きい仕事です。適性を見極めて業務をマッチングし、働きやすい職場環境をつくることで、重要な業務の一部を担い、長く働いてもらうことができると考えています」と熱く語っておられました。

令和3年10月から働いている方に、お話を聞きました。



焦らず、自分のペースで いとう りん 伊藤 凛さん



仙台市障害者就労支援センター（はたらポート仙台）の支援を受けているときに、現在の仕事の求人票を見て、正確さや丁寧さが重視される業務内容が自分に合っていて、やりがいもある仕事だと思ったのが、就職のきっかけになりました。バスを乗り継いでの通勤が少し大変そうに感じましたが、実際に通ってみたら、心配していたほどの負担はありませんでした。

お札の束を専用の機械にかけて枚数が合っているか確認する作業、硬貨が棒状にまとめられている「棒金」を割って、硬貨の枚数を確かめ、フィルム状のものを巻く作業などを担当しています。

他の社員と比較して作業が遅いのではないかと思います。焦りを感じることがあります。落ち着いて自分のペースでやっていくことを意識しています。仕事には少しずつ慣れてきました。

勤務先には、配慮していただきたい点として、畳みかけるような話し方はしないでほしいとお伝えしました。職場では皆、優しく接してくれるので、心が落ち着きますし、安心して作業することができています。

嬉しいのは、上司から良い評価をいただくことです。「早くなったね」、「効率よくできるようになったね」などと声を掛けられると、「嬉しい」という気持ちが湧いてきて、より前向きな気持ちで仕事に取り組むことができます。

長く働き続けるのが、目標です。しっかり体調を管理して、休まずに出勤することが大事だと思っているので、いつも気を付けています。

働きたい障害のある方には、「最初は、『就職活動、大変だな』と思うことがあるかもしれませんが、焦らず、自分のペースで取り組んで下さい。頑張ってください」と伝えたいです。



●特別養護老人ホーム暁星園 (仙台市宮城野区)



「暁星」はカトリック教会が伝統的に用いる「聖母マリア」に対する賛美の呼び名です。聖母マリアの絶大なるお力添えを願って名づけられました。

設 立： 昭和 51 年 2 月 1 日
代 表 者： 施設長 鈴木 美千哉
事業内容： 特別養護老人ホーム運営
雇用状況： 知的障害者 3 名
(令和 4 年 12 月現在)



暁星園外観

る仕事など、障害のある職員が取り組みやすい業務を集めました。

業務内容を伝えるときには、手書きのメモやパソコンで書いて打ち出したものなどを書面で示し、目で見て分かるようにしています。また、業務内容確認表を作成し、障害のある職員がそれを見て、その日に行う作業を確認したり、業務終了時にその日に行った作業に丸を付けて振り返ったりできるようにしています。

職員によって指示の伝え方や言葉のニュアンスが変わって障害のある職員が混乱しないように、業務に関する指示を行う職員はひとりに限定しています。

障害のある職員3名のうち、2名はいずみ高等支援学校の卒業生です。施設が

カトリック教会を母体とする社会福祉法人カトリック児童福祉会が経営する特別養護老人ホームです。かつては宮城野区安養寺にありました。平成26年12月に宮城野区東仙台的現在の場所に移転し、全室個室・ユニット型の施設になりました。仙台市北東部に位置しており、交通の便に恵まれ、豊かな自然と緑に包まれた地域にあります。

入居者の方々に明るく楽しく、心安らかな毎日を過ごしていただくことを目指しています。

長期で入居中の方は約100名、短期(ショートステイ)の利用者は約15名です。入居者一人ひとりの生活習慣や好みを尊重し、施設利用前の暮らしが継続できるようにサポートしています。10名の入居者でひとつのユニットとし、できるだけ家庭に近い小さな生活単位での暮らしを提供しています。また、介護スタッフをユニットごとに固定し、看護師は2ユニットに1名を配置するなど、個別ケアの充実を図っています。ケアプランの遂行や入居者の状態の把握など、きめ細かな個々に合わせたケアの提供も行い、利用者にゆとりある生活を送っていただけるようにしています。

障害者雇用に関しては、施設の移転がきっかけとなりました。移転に伴って職員の数が増え、法定雇用率を満たす必要がありました。

現在、雇用している障害のある職員は3名です。全員が業務補助の仕事をしています。主な仕事は清掃で、それぞれが担当する階のフロアや廊下の掃除、入居者の居室のゴミの回収といった様々な作業をしています。

施設内の消毒作業、ビン、缶、ペットボトルの回収や敷地内の落ち葉集めといった業務も行っています。

障害者雇用に当たっては、ゴミの回収など障害のある職員が日常の生活のなかで経験したことがあり、身近に感じる作業、入居者に感謝され、やりがいを感じられる



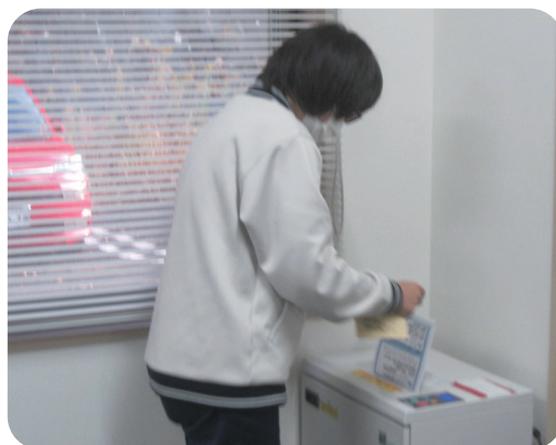
掃除機を使って掃除をしているところ



安養寺にあったときから、交流があったことが雇用のきっかけとなりました。施設移転後の現在も交流は続いています。

地域に貢献する活動として、今年度から障害のある職員が近くの道路で清掃作業を行うなど施設外での清掃に取り組み始めました。障害のある職員の働きぶりを多くの方に見てもらいたい狙いもあります。

生活相談員の茂庭智彦さんは、「障害の有無に関係なく、3名が取り組む仕事は大事で、他の職員も助かっています。地域に根差した施設として、近隣にある支援学校の卒業生を職員として受け入れるといった形で地域に貢献したいです。障害者雇用には引き続き取り組んでいきます」とお話をされていました。



シュレッダーがけ

平成29年12月から働いている方に、お話を聞きました。



仕事の仕方が変わっても柔軟に対応していきたい

たかはし のりえ
高橋 規恵さん

就職前は、仙台市の嘱託職員として、事務補助の仕事をしていました。仙台市障害者就労支援センター（はたらポート仙台）のジョブコーチ（職場適応援助者）の支援を受けながら市役所で補助的な業務に従事し、社会人として必要なマナーやスキルを身に付け、一般企業などへの就職を目指していました。そのときに、ジョブコーチと一緒に合同面接会に参加したのがきっかけで、暁星園に就職しました。実際に業務を体験し、面接を受け、採用の連絡をいただきました。自分にできそうな仕事だと思ったことと住んでいるグループホームから近く、通いやすいことが、就職の決め手となりました。

主に清掃の仕事をしています。私は施設の3階部分を担当していて、各ユニットのごみを集めたり、掃除機をかけたりしています。特別に大変だと思うような仕事はありません。毎週水曜日のシュレッダーがけの後、裁断した大量の紙を袋に入れたり、運んだり、掃除機がけをしたりするのが、少し手がかかる作業です。3階で働く他の職員の方々に、「いつもきれいにしてくれて、ありがとう」、「ご苦労様」といった感謝の言葉をかけられるのが、励みになっています。

私は仕事の仕方が変わると、慣れるまでに少し時間がかかることがあります。仕事の仕方が変わっても柔軟に対応し、働き続けるのが目標です。



発行：仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」

（指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

住所：仙台市泉区泉中央2丁目1-1 泉区役所東庁舎5階

電話：022-772-5517 FAX：022-772-5519

Mail：info@sendai-wsc.jp HP：https://www.sendai-wsc.jp

